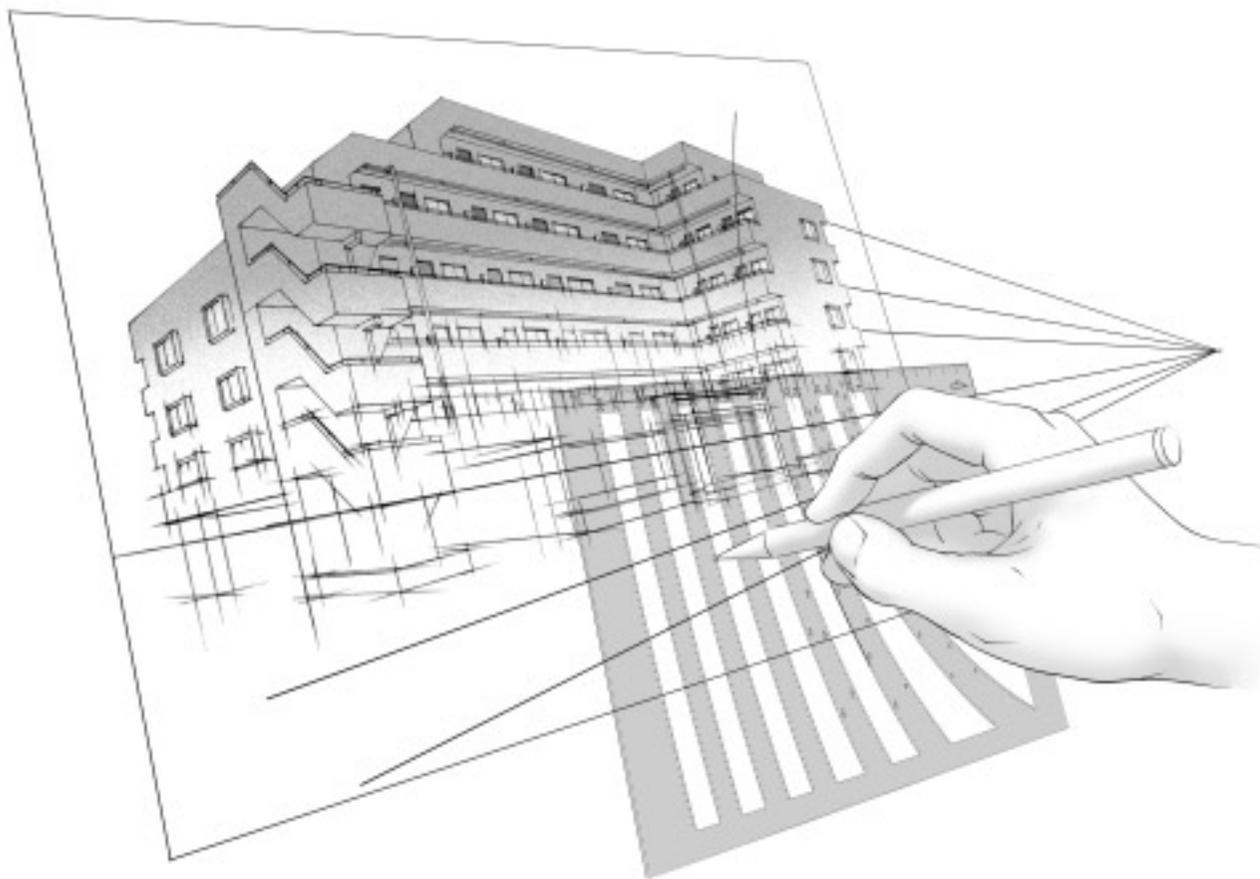


.Too

パース定規²_{PAT.P}



ガイドブック

この度は弊社製品を
ご購入いただきまして誠にありがとうございます。
「パース定規²」は本ガイドブックを
良くお読みになってご使用ください。

ラフスケッチを正確なパース図に描き起こそうとする場合、

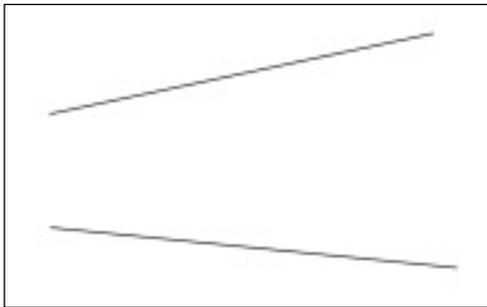
普通は消失点を画用紙に書き込み、その消失点から定規でパースラインを引いて作画しますが、消失点はしばしば画用紙からはみ出したり、定規がとどかないほど遠くにあったりするものです。

ラフスケッチを正確なパース図に描き起こすには、まず、そのパースの消失点はどこにあるかを知る必要があります。

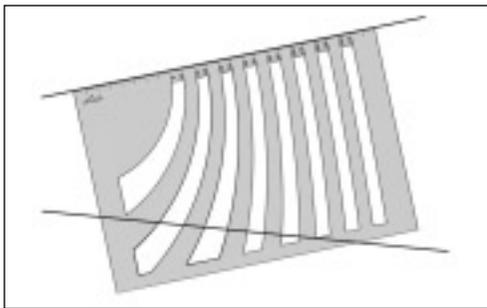
[アール検知]

「アール検知」とは、パースの消失点の位置を特定して、画面上に記すことをいいます。

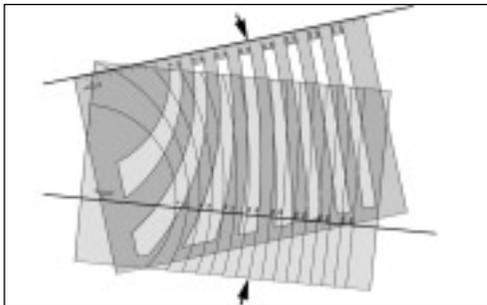
パース定規2は特定した消失点を「アール補助線」として紙面上に表記し、そのパースを正確にとらえることができます。



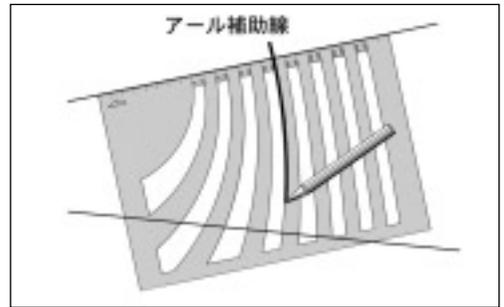
1. 上記のような平行でない適当な2本の線を紙に描いてください。



2. その線の一方に定規サイドが合わさるようにパースプレートを置いてください。



3. もう一方の線にBラインが合わさるようにチェックシートを重ねて、アールスリットとアールラインのカーブがぴったりと一致する一組のアールを見つけてください。



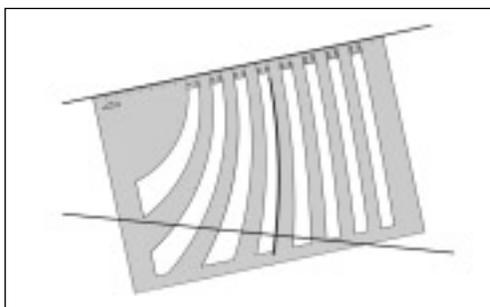
4. チェックシートをどけてから、そのアールにアールスリットで線を引いてください。そのアール線を「アール補助線」とよびます。

ポイント

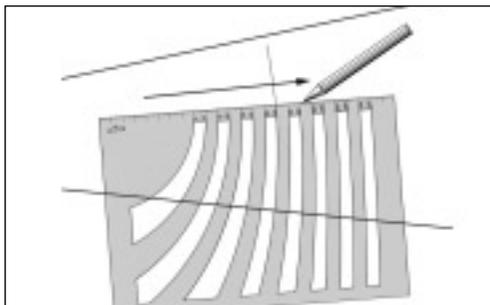
- 紙面上の線に定規サイドを合わせるときは、必ず消失点のある方向にパースプレートの矢印を向けてください。
- チェックシートをパースプレートと重なるときは、重なる面積が大きくなるように表と裏を使い分けてください。
- アールがぴったりと重ならない場合は、パースプレートを左右どちらかに数センチずらしてからもう一度チェックシートを合わせてください。
- アールスリットの定規サイド側にある数値は、消失点からの距離、つまりその円の半径を示しています。数が大きいほど緩いパースで、小さいほど急なパースになります。

[パースを描き込む]

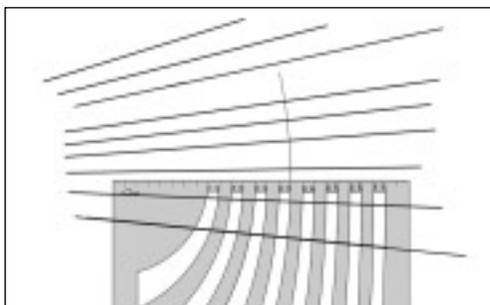
アール補助線に従ってパースラインを描きます。



1. アール補助線に対応するアールスリットを合わせてパースプレートを紙面上に置いてください。



2. アール補助線に沿ってパースプレートをずらしてゆき、適当なところに定規サイドで線を引いてください。その線がパースラインになります。



3. 同様にアール補助線に沿ってパースプレートを移動させることによって、何本でもパースラインを引くことができます。

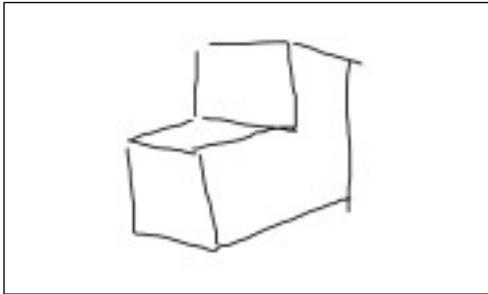
ポイント

- アール補助線が短くて使いづらいときはアールスリットを合わせて書き足してください。
- パースプレートを裏返しても、アールスリットをアール補助線に合わせて使うことができます。

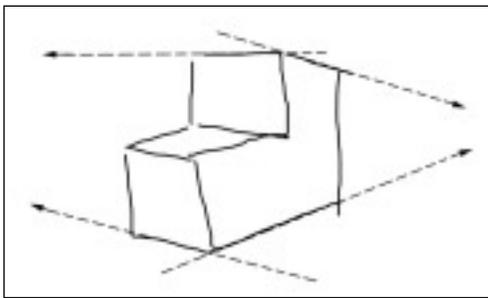
ステップ ② 二点透視図を描く

[基礎的な二点透視図]

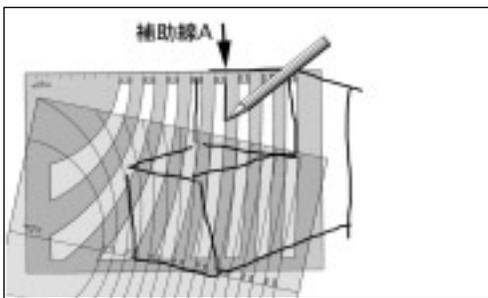
基本機能を使って二点透視のパース図をラフスケッチから起こしてみましょう。



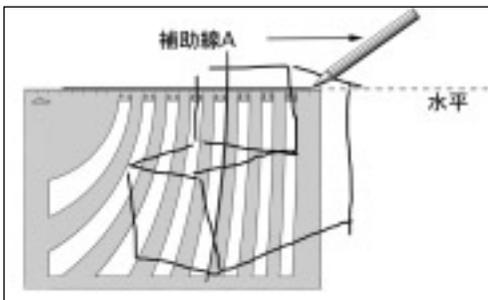
1. 上記のようなイメージ画を用意してください。これはラフスケッチなのでパースがゆがんでいても構いません。



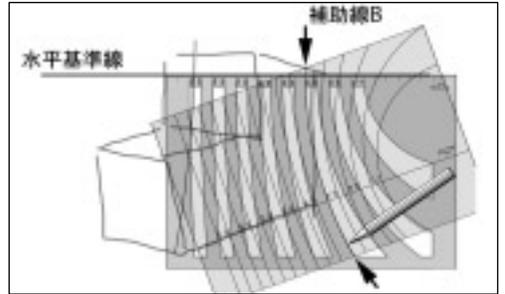
2. 点線で示したように左右二方向にパースがかかっています。アール検知をするのでどちらか一方のパースを選んでください。



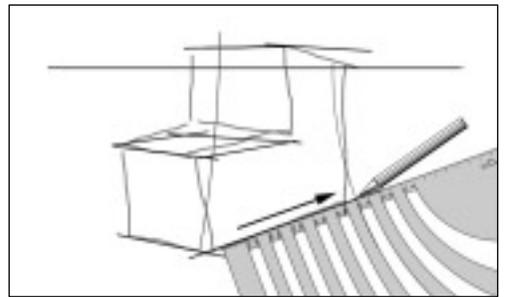
3. 選んだパースの中から適当な二本の線を選んでアール検知をします。ここで検知されたアール補助線を「補助線A」とします。



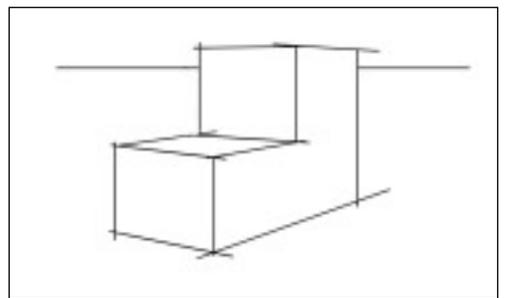
4. 「補助線A」に沿って、パースプレートを移動させ、定規サイドが水平になるようにして線を引きます。この線を水平基準線とよびます。



5. スケッチの中から選んだ適当な一本の線と水平基準線でもう一方のパースのアール検知をします。ここで検知されたアール補助線を「補助線B」とします。



6. 「補助線A」と「補助線B」に沿ってそれぞれパースラインを引いてください。



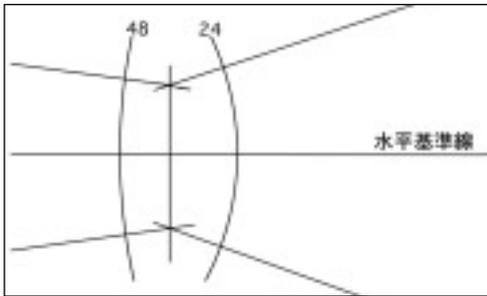
7. 垂直方向の平行線を描き加え、二点透視図ができます。

ポイント

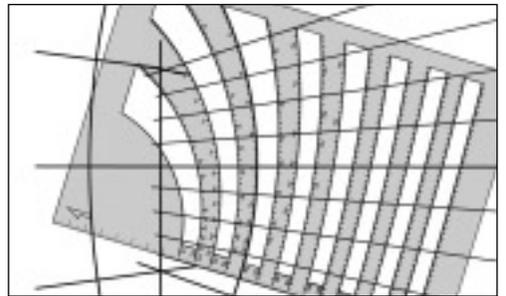
- 水平基準線はパース図の中で目線の高さを現しています。アール検知に水平基準線を使うと、二つの消失点が水平な線上に並ぶので画面が安定して見えるようになります。水平基準線が必要のない場合もありますが、パース図に人物を描き入れたり、複雑なパース図を正確に描くためにはとても重要です。
- 「7.」の手順は、行程のはじめに行っても差し支えありません。

[等間隔パースラインとパースグリッドを描く]

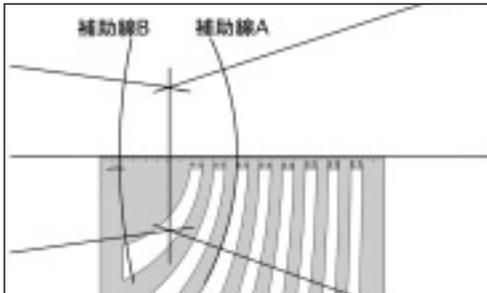
タイル壁面やフローリング床の表現によく用いられる等間隔パースラインを、パース目盛りを使って描き入れていきます。



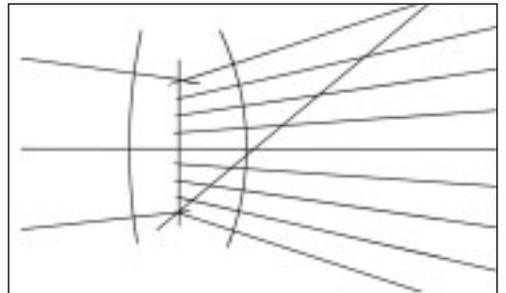
1. 上記のようなアール検知をしたパース図を用意してください。



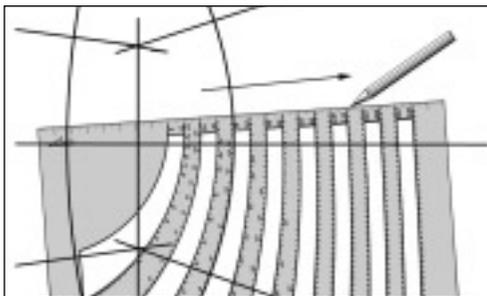
5. 水平基準線をはさんで対称に、同様のパースラインを引いてください。図のような等間隔パースラインが描けます。



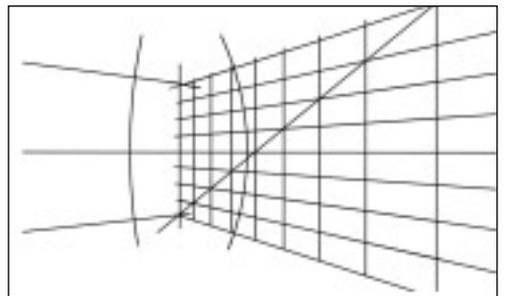
2. 「補助線A」に対応するアールスリッドが合うようにパースプレートを置き、



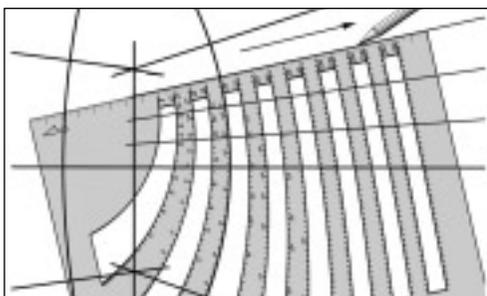
6. 次に、パースグリッドを描きます。等間隔パースラインと交差するように、適当な直線を対角線を引く要領で引いてください。



3. 「補助線A」に沿ってパースプレートをずらしてゆき、パース目盛りの一定の目盛りが水平基準線と交わるところでパースラインを引いてください。
(例：6目盛りずつ)



7. その直線と等間隔パースラインの交点に、垂直方向の線を引くとパースグリッドになります。



4. 同様に水平基準線と目盛りを合わせるようにパースプレートをずらしてゆき、一定の目盛りごとにパースラインを引いていってください。

ポイント

●パース目盛りを使うときは、必ず水平基準線に始点にしてください。もし、他の斜めの線を始点にするとパースが歪んでしまいます。

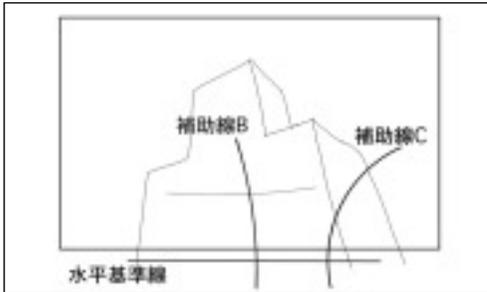
3 三点透視図を描く

[基礎的な三点透視図]

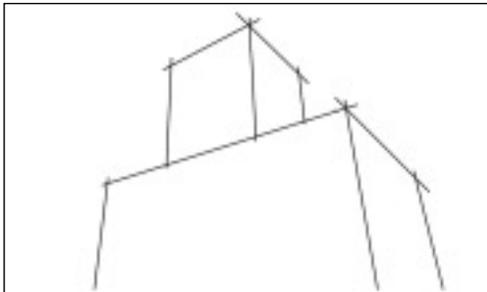
三点透視図では、煽りや俯瞰の視点が強調され、空間をダイナミックに表現できます。



1. 上記のようなイメージ画を用意して下さい。そして、垂直方向のパースのアール検知をします。(補助線A)



2. 残りの二つのパースのアール検知をして、水平基準線を引きます。(補助線B,C)



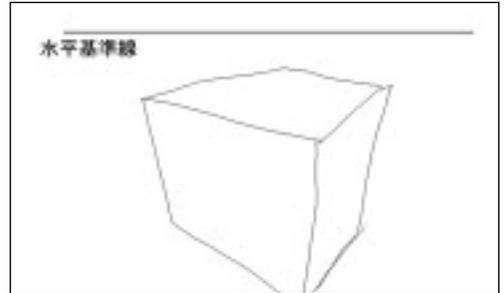
3. 三本のアール補助線に従ってパースラインを描いてください。

ポイント

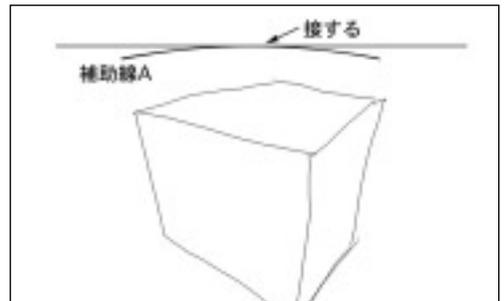
●三点透視図を描くときは、水平基準線をまたいだモチーフの構成はパースに矛盾が強く現れることがあるので注意してください。

[三点透視図のパースグリッドを描く]

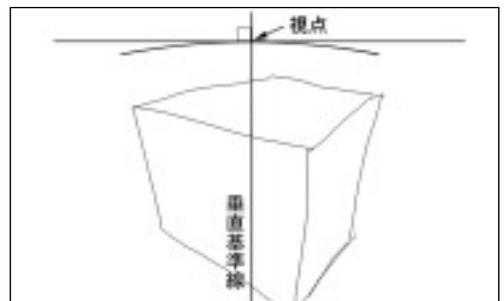
三点透視図のグリッドはそれぞれの面の二方向にパースがかかるため、奥と手前のグリッドの縮尺が大きく違ってきます。その縮尺の変化を正確に描くには、本来とても複雑な手順と多くの補助線が必要になります。三点透視図のパースグリッドをパース目盛りを用いて作図する場合、画面上の視点にアール補助線を集めることで簡単にパースグリッドを描くことが出来ます。



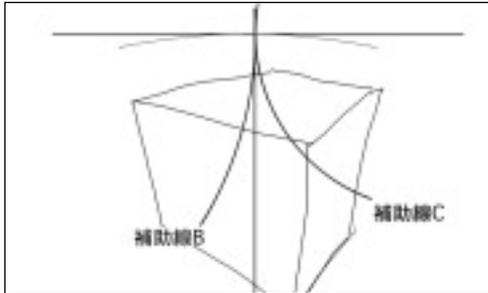
1. 上記のようなイメージ画を用意して、まず、水平基準線を引いてください。



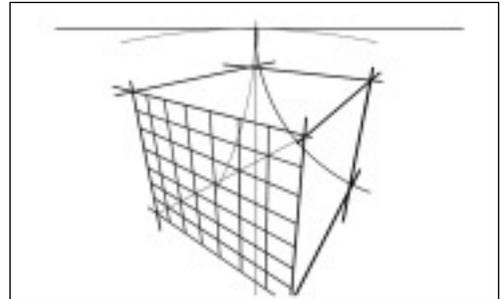
2. 垂直方向のパースのアール検知をしてください。このとき、アール補助線が水平基準線と接するように調整してください。(補助線A)



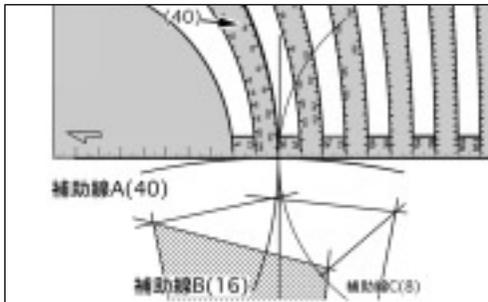
3. 「補助線A」に沿って、定規サイドが水平基準線と直角に交わるようにして線を引きます。この線を垂直基準線とよびます。そして、この交点が視点となります。



4. 他の二方向のパスにそれぞれアール検知をしてください。このとき、アール補助線が視点を通るように調整してください。(補助線B,C) それから、三本のアール補助線に従ってパースラインを描いてください。

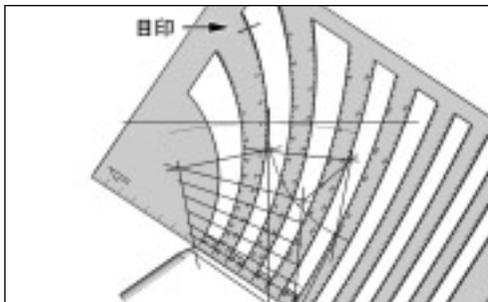


7. パースラインに斜線を引いて交点を取り、「補助線A」のパースラインを引くと、三点透視図のパースグリッドになります。



5. ここで仮に、「補助線A」の半径が40、「補助線B」の半径が16、「補助線C」の半径が8だとします。「補助線B」または「補助線C」のどちらかに沿って、定規サイドが水平基準線と合うようにパースプレート置いてください。

「補助線B」のパースラインは図に示した面で「補助線A」のパースラインと交差しています。そこで、「補助線C」のアールスリットのパース目盛りから、「補助線A」の半径(40)と同じ数字がふつてある目盛りを見つけて、印を付けてください。

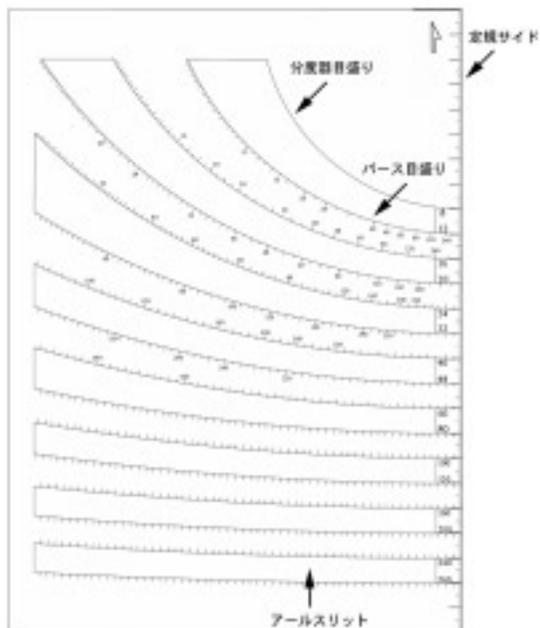


6. パース目盛りを使って等間隔パースラインを引いていきますが、目盛りを水平基準線ではなく、前項の印に合わせて一定の目盛りごとにパースラインを引いていってください。

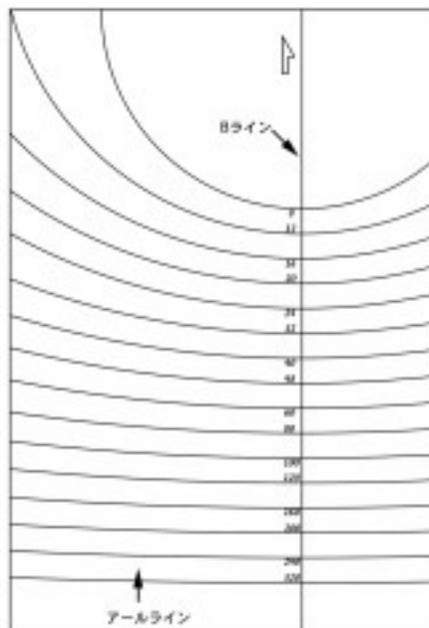
ポイント

- 等間隔パースラインは半径が短い急なパスからとるようにすると、交差するパスの目盛りが見つけやすくなります。
- アール補助線を視点に集めるのは、視点から消失点までの距離と角度を正確に導き出すためです。視点からずれてしまうとパースグリッドが大きく歪んでしまいます。少々アバウトに作図する場合でも、最低一つは視点に合わせて、そのアール補助線で等間隔パースラインを引いてください。
- 目盛りに書かれていない半径は、前後の間をとってください。

各部の名称



●パースプレート



●チェックシート

株式会社 **Too**

東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサワ東急ビル4F 〒150-0013

Tel (03) 3767-2881

<http://www.too.com/mp>

